

露地すだちのグリーンな栽培体系

神山地区農業生活指導班

月	旬	作業項目	化学農薬の削減	化学肥料の削減	作業の省力化
1					
2	上	土づくり・局部深耕		有機配合肥料と有機物施用	
	中				
	下	施肥（基肥）	ダンボール製防草シートの敷設		ダンボール製防草シートの敷設
3	上				
	中	除草剤処理	除草剤処理（樹幹下を除く）		除草剤処理（樹幹下を除く）
	下	かいよう病防除 ICボルドー66D			無人防除機を使った薬剤散布
4					
5					
6	上	ミカンハダニ防除	有機殺ダニ剤「サフオイル乳剤」		
	中				
	下				
7	上				
	中				
	下	灌水（8月末まで）			点滴灌水設備を使った灌水
8	上				
	中	収穫始め			
	下				
9					
10	上	かいよう病防除 ICボルドー66D			無人防除機を使った薬剤散布
	中	ミカンハダニ防除	有機殺ダニ剤「サフオイル乳剤」		
	下	施肥（礼肥）			点滴灌水設備を用いた有機質液肥施用
11					
12					

ダンボール製防草シートの敷設

【敷設方法】

- ・苗木および幼木を対象とします。
- ・樹幹下の土を平たく均しておきます。
- ・2月下旬から3月上旬に、基肥一発肥料を施用します。
- ・市販の円形防草シートを敷設します。
- ・風で飛ばないように、外周部に土寄せします。
- ・抑草効果は、半年程度期待されます。

【期待される効果】

- ・除草剤（化学農薬）の処理面積が減少し、使用量の削減に繋がります。
- ・樹の下枝等への除草剤の飛散リスクが低減されます。
- ・樹幹下への除草剤散布が無くなり、作業時間が短縮されます。
- ・刈払機による除草面積が減少し、作業時間が短縮されます。
- ・古紙を利用した資材のため、使用後に回収する必要はありません。
- ・刈払機による除草時、樹の主幹部を傷つける心配がありません。
- ・防草シート下部の土壤乾燥を抑え、土壤水分を保持します。

【留意点】

- ・資材が強風等で飛ばされることの無いよう、しっかりと土寄せしておきます。
- ・飛散防止用に金属製や樹脂製のペグを使用すると、刈払機での除草時に注意が必要です。



有機配合肥料と有機物の施用

【処理方法】

- ・2月頃、樹間に有機配合肥料とピートモスを局所施用します。
- ・充電式アースオーガを使って、1か所当たり3～4穴をタコツボ処理します。

【期待される効果】

- ・土壤の保肥力や保水力の向上に繋がります。

【留意点】

- ・充電式アースオーガを使ったタコツボ処理の作業時間は、10a当たり約2時間要します。
- ・土の硬いほ場では、2名で作業すれば負荷が軽減されます。



有機表示のできる資材によるハダニ防除

【散布方法】

- ・6月上旬と10月中旬の2回、サフオイル乳剤500倍液を立木全面散布します。

【期待される効果】

- ・ミカンハダニを対象とした防除用殺虫剤として、効果的に使用することができます。
- ・化学農薬の使用回数が減少し、使用量の削減に繋がります。

【留意点】

- ・発生初期に、ムラなく十分量を散布します。
- ・残効が短いのでハダニ発生の多いときは数日間隔で連続散布し、展着剤を加用します。

点滴灌水設備を活用した灌水と液肥の施用

【灌水方法】

- ・梅雨明け後の7月下旬から開始し、収穫期の8月までを基本とします。
- ・樹幹下に設置した点滴灌水設備と動力噴霧機を使用し、ドリップ灌水します。

【期待される効果】

- ・手灌水時に比べて、作業時間の短縮が図られます。
- ・限られた水を効率的に灌水でき、果実肥大や果汁量の増加が期待できます。

【液肥施用方法】

- ・10月中旬に、礼肥として有機質液肥と化学液肥を施用します。
- ・液肥は所定の濃度に希釈後、点滴灌水設備を使用し樹間下に施用します。

【期待される効果】

- ・化学肥料をほ場まで運搬および施用する作業が不要となります。
- ・土壤乾燥時にも主要根群域へ肥効し、速やかな樹勢回復が期待されます。

【留意点】

- ・ 慣行の化学肥料に比べて、有機質液肥の購入単価は高くなります。
- ・ 液肥を所定濃度に希釈時、水とタンクの確保が必要となります。



無人防除機を使用した薬剤散布

【農業用ドローンによる散布方法】

- ・ 成木園で、登録農薬を立木全面散布します。
- ・ 無風または風の弱い日や時間を選んで、散布します。

【期待される効果】

- ・ 農薬散布時間は、10アール当たり約15分にまで短縮されます。
- ・ 農業者の作業負荷は、大きく軽減されます。

【留意点】

- ・ 今回の結果は参考値であり、ドローン機種や園地条件等により効果は異なります。

【自走式四輪防除機による散布方法】

- ・ 成木園で、登録農薬を立木全面散布します。
- ・ 強風時の日や時間を避け、散布します。

【期待される効果】

- ・ 農業者の作業負荷は、大きく軽減されます。

【留意点】

- ・ 10アール当たりの農薬散布時間は、手散布時とほぼ同じです。

